

一般社団法人 障害者スキー振興協会 活動報告書

2012年10月～2020年8月



一般社団法人 障害者スキー振興協会 解散のご報告

2012年10月1日、それまで障害者スキーに携わる中で見出した問題点を解決すべく、一般社団法人 障害者スキー振興協会を設立しました。目標は、どのような障害があっても『いつでも、どこでも、だれでも』スキーを楽しめる環境作り。協会設立以前から、また設立以降も、多くの方に出会い、活動理念をご理解頂き、大きな力をお借りすることで活動を進める事ができました。

活動をすすめる中で、目標の一つである『どこでも』を実現することは非常に困難でした。当初、国内における主要エリアに提携スキー学校を築き、受講生が滑りたいエリア・スキー場を自由に訪れる事ができるよう考えておりました。しかし、視察や普及活動の中で感じた事は、地域によりスキー文化は大きく異なるという事でした。またゲレンデ事情や積雪状況なども大きく異なります。受け入れて頂く環境を作るために試行錯誤しましたが、『どこでも』という目標には程遠く、実現することはできませんでした。

しかし一方で、提携頂いた2つのスキー学校では、受け入れ側の都合ではなく、受講生の行きたい日程で受講いただく事ができ『いつでも』を達成する事ができました。もちろんすでに予約が埋まっている場合や、スキー場の積雪状況やイベントの有無などにより受講できない日程もありました。しかし受け入れ側の都合ではなく、受講生の希望する日程でスキーへ行く、という事はこの世界の中では大きな一歩でした。

また障害の種類や程度の分け隔てなく、考えうる全てのスタイルのレッスンを展開し『だれでも』受講する事ができました。これも特定の障害や、特定の器具を使用する活動は他にありますが、一人一人に最適なスタイルで滑る事を実現できていない事もあります。しかし一人一人の障害や程度、特性を見極めた上で、多くの選択肢の中から滑りのスタイルを選ぶ事ができ、レッスンを提供する事ができた事は、大きな成果であったと考えております。

設立当初、「目標が大きいなら、いろんな人の力を借りなさい。一人ではできない事でも、多くの人の力があれば大きな目標が叶いますよ。」というアドバイスを頂きました。今思えば、本当に多くの方に出会い、活動にご理解を頂き、様々なかたちの手を差し伸べて頂きました。ですが残念ながら、津川自身にそれらの力をお借りし、ベクトルの向きをまとめ、活動の推進力を大きくする能力が欠けていました。その結果、協会を解散するという結論に至りました。これまでお力をお貸し頂いた皆様のご期待に添えず、本当に申し訳ございません。

8シーズンに渡り活動を進める中で、達成できなかった事も多々ありますが、いくつかの成果を上げる事もできたかと思えます。ここに、これまで協会が行ってきた活動のご報告をさせて頂き、合わせて受講生から頂いた感想や感謝の言葉を、お力を貸して頂いた皆様と共有したいと思います。文面では、協会や津川に対する感謝の言葉がありますが、これは支えて頂いた皆様への言葉だと考えております。

2020年8月を持ち、一般社団法人 障害者スキー振興協会は解散いたしました。この活動報告書を皆様のお手元に届け、全ての活動を終了とさせて頂きます。長い間ご支援頂き、本当にありがとうございました。

一般社団法人 障害者スキー振興協会 代表理事 津川朋也

活動報告書 目次

 指導者講習会 	4
○ SIA公認 Hakuba47 Ski Academy ○	
○ SAJ公認 拇池スキー学校 ○	
 スキーレッスン 	6
○ SIA公認 Hakuba47 Ski Academy ○	
○ SAJ公認 拇池スキー学校 ○	
○ 出張レッスン ○	
 普及活動 	16
 啓発活動 	20
 助成事業 	22
 その他の活動 	23
 西町インターナショナルスクール 	24
 メディア掲載 	27
 他サイト掲載 	31
 ご協力いただいた企業 	32

活動の一番の目的である、障害をお持ちの方へスキーの楽しさを伝える事。この活動報告書では、特に受講生の感想を多く掲載しました。受講生やご家族から頂いた感想は、当日の様子やスキーをした時の表情などが目に見えるようです。ぜひ目を通して頂きたいです。他にも多くの受講生から感想を頂きましたが、残念ながら全てを掲載する事はできませんでした。申し訳ございません。

掲載した内容は、その後の発展を望みましたが実現する事のできなかった事や、主にオフシーズンにおける啓発活動などの雪上以外での活動、新聞・雑誌・TV等のメディア掲載など、協会として行った活動をほぼ全て掲載しました。

まとめている内に、想像していたものよりもボリュームが増えました。しかしこれら全ては皆様のサポートによる活動です。お時間頂きますが、目を通して頂けると幸いです。

❄️ 指導者講習会 ❄️

どのような障害があっても、『いつでも、どこでも、だれでも』スキーを楽しめる環境作り。この目標を達成するために一番必要な事は、受講生を受け入れて頂けるスキー学校を増やす事でした。しかし目標を達成する事は本当に困難である事を思い知らされる事にもなりました。受講生が安心して訪れるためには、車椅子トイレやスロープ、駐車場からの導線などのハード面に目が行きがちです。またスキー学校の規模や運営状況、インストラクターの人数や年齢層なども大きな問題です。しかし何よりも大切な事は「受け入れよう」という気持ちや覚悟があるか？という点でした。提携頂いたスキー学校は、様々な障害を持つ方々に、触った事のない器具を用い、本当に自分達が指導できるのであろうか？という大きな不安がある中で、それでも「スキーの魅力を伝えたい」という熱い気持ちを持ち受け入れに前向きに準備して頂きました。この指導者講習会を経て、その後のレッスンを円滑に行う事ができました。ご参加された指導員はもちろん、スキー学校運営陣、他のレッスンに穴を開けぬようサポート頂いた指導員など、関わって頂いた全ての方に感謝いたします。

○ SIA公認 Hakuba47 Ski Academy ○

法人格取得前から、活動趣旨にご理解頂いておりました。もちろん指導者講習会にも前向きにご参加いただきました。障害についての座学や、車椅子や擬似的に視覚障害を体験できるゴーグルなどを用いての体験やサポート方法の講習も行いました。実際に車椅子でレストハウスを使用し、ハード面の不備をどうマンパワーでクリアできるか？など、指導員から前向きな意見を聞く事ができました。もちろん雪上での講習も行いました。スキースクールの指導員が、アウトリガーなどの性能や特性を見出しながら、また楽しみながら講習を受けて頂いている姿は、その後のレッスン受け入れにも大きな期待を感じる事ができました。



○ SAJ公認 梶池スキー学校 ○

ベースエリアには広大な緩斜面をもち、初心者の練習環境には最適。もちろん斜面変化にも富み、数々の名スキーヤーを輩出するスキー場です。現地の助成金からの講師派遣という形で講習会を開催する事ができたため、3シーズンを費やし時間に余裕を持ち、障害を分類し計画的に行う事ができました。講習後には、受講された指導員が各々で復習したり、講習会に参加できなかった他の指導員へ伝達するなど、とても前向きな姿勢が見えありがたく、心強く感じる事になりました。最終段階では実際に障害を持つ方をお呼びし、受講する立場から指導員へ指導内容の分かりやすさ、サポートされた時の感想などを伝える機会を設けました。双方とも初めは緊張の面持ちでしたが、真剣に前向きに取り組んでくださりました。当初の大きな不安は、これらの講習会終了時には大きな自信に変化した事を実感しました。これは後に全てのスタイルでの受け入れにつながる事になったと考えております。



❄️ スキーレッスン ❄️

それまでに行った指導者講習会を経て、いよいよスキー学校でのレッスンの受付が始まりました。受講生からの問い合わせは、必ず当協会を通していただきました。その理由は年齢や体格、障害の種類や程度、日常生活様式はもちろん、スキー歴・運動歴などをヒアリングし、時には歩く様子を動画で撮って頂き分析し、受講生に最も適した滑りのスタイルを検討、提案する必要があるからです。もちろん受講生のご希望もあります。それらに対して、どのスタイルであれば、どのようなメリットやデメリット、可能性があるかを説明し決めていきました。

また特に大切に心がけた事は、様々な不安を解消する事です。現地への移動が電車か車かによりそれぞれ心配事も異なります。雪国へ行った事がない方やスキーをする事がまったく初めての方へは、道中の服装や靴のアドバイス、スキーウェアやグローブなどの小物、インナーウェアについてのアドバイスも行いました。受け入れに前向きな心暖まる宿の紹介や、レッスンを含めスキー旅行全体にかかる費用の概算、ゲレンデでの昼食や帰りに入るお勧め温泉の紹介なども行いました。どのような事でも初めての事は不安がいっぱいですが、少しでも不安を解消し、安心して楽しいスキー旅行にして頂くために、電話やメールで頻繁にやり取りを重ねてきました。これらのやりとりの中で特にレッスンに必要な情報をまとめ、事前にスキー学校へ送ります。指導員は情報を入手し、必要な器具の準備、当日使用するゲレンデの状況確認や移動手段を考慮するなどの準備を行います。この仕組みが、指導員も受講生も安心してレッスンを迎える事に繋がりました。

協会はより詳細に受講生の情報を掴み不安を解消し、受け入れ側はどのようなスタイルでも対応できる能力を持つことで、知的障害、視覚障害、両下肢の麻痺、半身麻痺、下肢の切断、難病の方を、様々な立位や座位など考える全てのスタイルで受け入れる事ができ、目標の一つである『だれでも』を達成する事ができました。

結果として、2校に提携スキー学校として活動して頂きました。白馬と梅池という隣り合うエリアではありましたが、受講生の希望や、障害やスキー技術によって向き不向きなどを考慮し、スキー場を「選ぶ」という選択ができました。また、それ以外の地域へは、当協会から出張レッスンという形で、目標である『どこでも』を部分的には達成する事ができました。本来であれば、北海道から中国山陰地方まで提携スキー学校を拡げたく活動していましたが、残念ながら達成する事はできませんでした。

『いつでも』については、スキー学校のご尽力により達成できました。もちろん、スキー場でのイベントやシーズン初め、終わりの指導員がいない時期もありましたし、すでに予約が埋まっていた日程はお断りをしました。しかし、受け入れ側の都合ではなく、受講生の希望する日程で滑る事ができた事は、目標をクリアできたと考えております。

シーズン毎における受講者をご紹介します。少雪時の影響、最後のシーズンは新型コロナの影響は特に大きくなりました。国内では北は福島県、西は広島県まで、またわざわざオーストラリアから2名の方が受講されました。最も多い方は8シーズン合わせて26日受講されました。

	12-13	13-14	14-15	15-16	16-17	17-18	18-19	19-20	合計(人)
Hakuba 47Ski Academy	4	2	0	1	1	3	1	0	12
梅池スキー学校	0	0	31	11	35	26	15	8	126
AADS出張レッスン	4	3	6	6	6	8	1	2	36
合計 (人)	8	5	37	18	42	37	17	10	174

○ SIA公認 Hakuba47 Ski Academy ○

ゲレンデ構成が比較的中上級者向けのスキー場であり、またベースエリアからの策動運行状況の問題もあり、主に知的障害のスキー経験者など基本的には器具を使用しない方を受け入れて頂きました。長野県に住んでいるもののスキーをさせる環境がなく、ようやく初めてスキーに挑戦する事ができ、ご家族で楽しい思い出を作られた家族。いつかは白馬の山で滑ってみたい、という長年の夢を叶えられた親子。雄大な景色が見える無音の場所がお気に入り、と何度も通った女性。たくさんの方がHakuba 47 Ski Academyを訪れました。「すべてができるか分からないけど、出来る事からやってみよう」という笹岡校長の言葉から始まった活動でした。本当に感謝しております。ありがとうございました。

N.K.様（お母様）より

2日間、白馬でのレッスンありがとうございました。

雪はたっぷり、晴天と言う抜群のコンディションの中レッスンはスタートしました。初対面の杉山コーチとも思ったより早く信頼関係が築け安心しました。

回を重ねるごとに上達してくるのがわかります。1年前から予定を立て、それに向けてスケジュール調整、貯金、年末が近づくと指定席を買いに緑の窓口に。出かける前の荷物造りを楽しそうにしているのを見て「スキーが上手になる」ということは「滑る」だけが伸びるのではなく生活の幅が広がり精神面も同時に成長していくというのを感じました。

それはレッスン風景でも感じました。コーチとの距離も、きちんとお話を聞く姿勢もできるようになってきたようです。レッスンはとても楽しかったようで帰宅してからは来年度に向けて仕事に励んでいます。親としては、スキーレッスンを通して成長していくK.を見て嬉しく思います。

お世話になりました障害者スキー振興協会の方々、丁寧に指導して下さった杉山コーチありがとうございました。



U.K.様（お母様）より

このシーズンも、お陰さまでとても楽しく白馬に行ってくることができました。温かなメッセージを送ってくださったり、Hakuba47Ski Academyとの打ち合わせ等、お気遣いありがとうございました。

1月に訪れた際、1日目は終日粉雪が降り続き、サラサラのパウダースノーを満喫することができました。昨シーズンも担当いただいた杉山先生が待っていてくださって、大変心強くありがたかったです。K.のことをよく理解してくださっていて、親身で的確なアドバイスをくださり、私もずっと一緒に滑らせてもらいましたが、その指導法はとても勉強になりました。2日間、可能な限りみっちり滑ることができ、K.はかなり上達してきました。母とふたりで滑ることは夢のまた夢でしたが・・・初心者コースならもう安心して二人だけで滑ることができるようになり、念願がかなって本当に嬉しいです。K.はかなりクタクタで、杉山先生にワガママも言っていました（笑）。「この次は、八方など他のスキー場にも行ってみよう！」と、杉山先生が言ってくださって、次回もまた楽しみになりました。

2月は、家族で湯沢にスキーに行ってまいりました。K.が専門の先生なしで、家族だけでスキーに行くのは初めてでしたが、上手に一緒に楽しく滑ることができました！！とばせるところはスピードを出したり、自在にカーブしたり、混雑しているところでもうまく人をよけたり・・・お気に入りは林間コースで、歓声をあげて何回も滑りました。こうなると欲が出て参りまして・・・何とか両足をそろえられるようになってくれたら・・・（本人の意思とは別です）と、春休みにもういちど白馬47に行くことにしました。

3月の今季最後のスキーも、杉山先生に大変親切にいただきました。2日間とも最高の天気、真っ白な北アルプスの峰々の大パノラマを臨みながら存分に滑ることができました！！今シーズンは2回も白馬に行くことができ、本当に幸せです。杉山先生には、弟まで親身なご指導とご配慮をいただき感謝・感謝です。そして、弟は念願のジュニア検定・シルバーを、K.はIT検定・セミブロンズに兄弟そろって合格することができ、夢のようです！！K.が検定を受けることができるなんて、全く想像していなかったのも・・・1月にはグッタリ疲れていた健太郎ですが、3月には楽に滑るコツをつかんだのか、2日間ともすこぶるご機嫌でした。笑顔で歓声をあげながら滑っていました。恒例の（？）「地蔵の頭」までの登山（？）もしました！！津川さんもいつも登られるとか・・・？五竜には毎年夏のお花畑に来ていますが、雪に覆われた北アルプスの大パノラマは格別でした。

それでは、今シーズンはこれで滑り治めでしたが、また来シーズンもよろしく願いいたします。心からお礼申し上げます。



○ SAJ公認 柵池スキー学校 ○

心熱い指導員が多数在籍し、スキー学校一丸となり全てのスタイルのレッスンを受け入れて頂く事ができました。スキー学校を中心に、索道やパトロール、レンタルショップ、宿泊施設のご協力も頂き、多くの受講生が常宿を持ち、アフタースキーも楽しんでおられました。障害の程度が変わりスキーから遠退いていた女性。以前は競技レベルでスキーを行うも、後天的に障害をもち諦めていたスキーでしたが、再び挑戦する事ができた男性。スキーのために筋トレを頑張る！とシーズン以外の目標も持ち、年に一度のスキーを小さい身体から大きな歓声をあげ笑顔いっぱいゲレンデ中を滑った男の子。家ではいつも仲良く姉妹で遊ぶがついにゲレンデでも一緒に遊べた家族。本当に多くの笑顔を生み出してくれた柵池スキー学校の皆様に本当に感謝しております。ありがとうございました。

O.S.様（お母様より）

小3の軽度知的障害と自閉症スペクトラムを持つ男児の家族です。

1/4～5日にかけて長野県柵池高原スキー場に行ってきました！年明け早々思いついたスキー旅行。おそらく障害者スキー教室はいっぱいだと半ば諦めつつも連絡致しましたところ、津川様よりすぐにお返事をいただき、スキー教室の先生をお手配していただきました。柵池は初めて行くので周辺のことが全くわかりませんでしたが、丁寧に教えていただき、宿についてもとてもリーズナブルでゲレンデ目の前のステキなホテルをご紹介いただきました。

スキー自体は2回目で、1回目は昨年12月に行きましたが、リフトに乗って先生の背中にしがみついて滑れる程度でした。今回はどうだろう、と半ばドキドキしながらスキー学校に行くとともに先生と意気統合し、それから2日間、めげる事も泣き言言うことも一切なく、とても楽しく学んでいました。先生はとても大らかで、息子の気持ちを組みながら、その時々状況に合わせてレッスンして下さるので、息子も安心して学べたのだと思っています。2日目には一人でゆっくり滑れるレベルにまでなりました。帰る日は「先生に一声挨拶してから帰りたい」、「また必ず柵池に戻ってきたい」と何度も口にしていました。

今まではどのスポーツでもなかなか上達するのに時間をかけていましたが、なぜかスキーはすんなり、そしてとても楽しく出来ました。家族みんなで楽しめるスポーツをずっと探していたので、これから毎年みんなでスキーが出来るようになり、スキーを通して色々な経験を積んで行けることをとても楽しみに思います。

スキーの体験を通して、発達障害、障害があっても色々なものにチャレンジしていけるバイタリティのある子に育ててもらえたと思います。そのきっかけの一つを柵池スキー学校で作っていただき、とても感謝しています。ありがとうございました！



S.A.様（お父様）より

1月26日、2月16日・17日、柵池高原スキー場でのスキーレッスンありがとうございました。

1月26日のレッスンは、最強寒波の中でのスキーレッスンでした。とても寒くて初めて指導して頂いたインストラクターの菅沼さんも寒さに慣れている僕らでも今日の寒さはキツイとおっしゃっていました。

そんな中、柵池スキー場を知り尽くした菅沼さんが、風の少ないコースを設定して頂いたおかげで、A.をはじめ私達はスキーを楽しむことができました。菅沼さんは、アウトリガーを使ってテダリングで上手に滑る事を目標にするA.に親切にわかりやすくご指導して頂き、バランスをとることがすごく上達したと思います。ありがとうございました。

2月16日・17日は初めて1泊2日でのスキー旅行を家族みんなでおもいきり楽しむことができました。1日目、快晴・無風のベストコンディションでのレッスン。2日目、大雪・強風の中でのレッスン。全く違う、柵池高原スキー場の二つの顔を満喫できました。特に、2日目は、厳しい環境で子供たちがスキーを嫌いになってしまわないか心配していましたが、A.も、長女も大雪の中、大はしゃぎで楽しんでいました。

これも、柳田インストラクターのスキーだけではなく、遊び心を交えた楽しいレッスンのおかげだと思います。子供たちが、悪天候でスキーが嫌いになること無く、「楽しかった！」と言えることは、スキーが大好きな私達、親にとってこんなにうれしいことは、ありません。柳田さん、柵池スキー学校のみなさん本当にありがとうございました。

A.は、この3日間でスキーがぐっと上達しました。転んでも、転んでも、諦めずにチャレンジする姿は、とても誇らしく、その姿を見れるのも障害者スキー振興協会様のお陰です。ありがとうございました。

また、宿泊先のホテルベルハートのみなさんの色々なお心遣いでスキー旅行を楽しむことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今シーズンも、障害者スキーに携わる全ての方のお陰で、私達はスキーを通じて家族の絆を深めることができました。本当にありがとうございました。また、来シーズンもお世話になると思いますがよろしくお願いします。



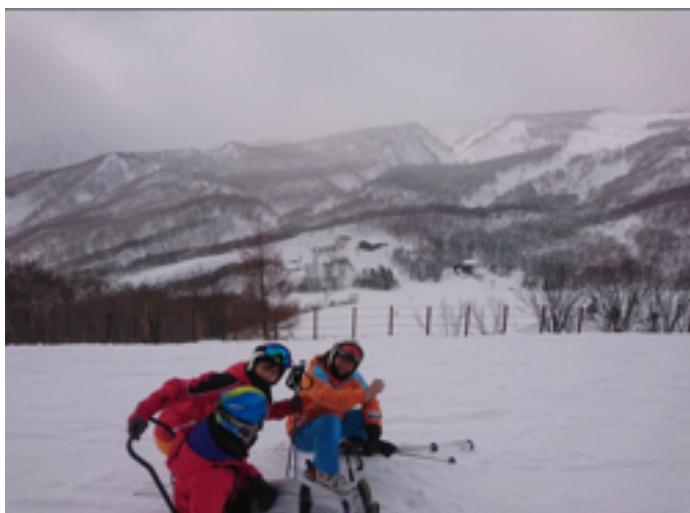
O.T.様（お父様）より

1月3日・4日の2日間、大変お世話になり、ありがとうございました。長男は重度の身体障害があり、言葉でのコミュニケーションはとれませんが、幼い頃から雪に親しんできたので、今回のバイスキーも何日も前から楽しみにしていました。

当日は強い寒波の影響で雪も降り、とても寒かったのですが、本人は楽しくて仕方のない様子で、ケラケラ笑ったり、拍手をしたりと全身で喜びを表現していました。

2日間とも担当して下さった菅沼先生は終始、丁寧な言葉がけでコミュニケーションをとって下さり、スピードや急斜面が好きなことが分かると、色々なコースに連れて行って下さいました。いとも簡単にあれだけの斜面を滑られる先生はさすがです！！家族だけでは決まったコースしか滑らせてやれないですが、本人も「全部のリフトに乗れた！」と大満足で、帰宅してからもその話題になると笑いがこみあげてきています。

これで益々、スキーが大好きになった長男です。3月には、いどこ達も一緒に、もう一度、梅池高原へ行く計画を立てています。その時は、またよろしくお願い致します。



F.H.様（お父様）より

先日のスキーレッスンでは大変お世話になり、ありがとうございました。私たち家族にとって、とても貴重な体験が出来ました。特にH.は初めてながら怖がる事もなく、笑顔で3日間を過ごせたことは、津川様そして“ジュンジマン”こと梅池スキー学校の北村様のおかげです。

思い返せばこのスキー計画は、実は2年前から始まっていました。スキー好きな私(父)は、足の不自由なH.を3歳の頃から背負ってゲレンデを滑っていたのですが、6歳ともなるとさすがに体も大きくなり、背負うのが難しくなっていました。チェアスキーの存在は以前から知っていたのですが、何処に連絡をとったらよいか皆目見当がつかず…。

そんな折“障がい者スキー”とインターネットで検索をしていたら、幾つかの団体があり、その中の1つに“A A D S”を見つけました。記事を読み進めていくうちに、“いつでも、どこでも、だれでも！”を掲げて活動されている津川様にとても共感を覚え、連絡を取った次第です。幾度かのやり取りを得て、悠希には“バイスキー”と“梅池高原スキー場”を勧めていただきました。ちょうどその頃、H.は1人親元を遠く離れ、専門の病院施設で歩くための手術と集中リハビリを受けていました。“バイスキーが出来る！”が励みとなり、H.が懸命に頑張った事は受講中にお話した通りです。

スキー場へ向かう道中では雨・雪ともに酷く“レッスン受けられるかな？”と心配したのですが、ゲレンデは天気も雪質も良く、3月とは思えないくらいのコンディションでした。今回、柕池スキー学校の北村様と津川様の“特別レッスン”という事もあって、私自身も本当に勉強になりました。

ゲレンデでのH.は、「速く～！速く～!!」と講師陣を急かし声を上げて楽しそうに滑っていました。また、修学旅行生や一般スキーヤー・ボーダーにも手を振るなど、笑顔で答えているH.を見て私も妻もとても嬉しかったです。林間コースでは“カモシカ”2頭に出会う事が出来たのも、幸運でした。スキー学校舎でも、レッスン光景を見掛けた他の講師の方々からもH.に沢山のお声がけをいただきました。少し照れながら受け答えをするその横顔には、“バイスキーで滑ることが楽しくて楽しくて仕方がない！”という気持ちが溢れていたように見えました。あっという間に楽しい3日間が過ぎ、帰路についた車中のH.は、あまりにも大はしゃぎし過ぎたせいか自宅に着くまで深い眠りの中でした。

自宅に帰ってから「バイスキーはどうやった？」と聞くと、「めっちゃ楽しかったわぁ！」との返事。「来年もしたい？」と聞くと「うん、絶対する！次はアウトリガー持つねん。」と瞳を輝かせて嬉しそうに答えてくれます。また、「アウトリガー持つなら腕の力要るし、風呂上がりの体操に腕立て伏せもせなあかん」と言うのと、「するわぁ！」と言って毎日1回ですが自分から進んで取り組んでいます。私たち家族の新たな目標が“来季も柕池に行こう！”となりました。

津川様をはじめとする関係者のみなさま、本当に有り難うございました。来季以降もお世話になりますので、よろしくおねがいします。末筆ながら、“いつでも、どこでも、だれでも！”がもっと身近になることを願ってやみません。津川様の今後のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。



M.K.様より

2011年2月。約15年ぶりに念願のスキー場に！！長く続けたいと思ったもののその後なんとなく計画が立てられずにいました。その後2014年3月に柵池スキー学校で行われた講習会に声をかけて頂き、3年ぶりのスキー。

この講習会で私のスキー熱に再び火が付きました。『絶対にスキーがうまくなりたい！颯爽と雪の上を滑りたい！』そんな強い想いを胸に動き出しました。先季はウエアー類以外レンタルしましたが脳性麻痺による足の変形があることからレンタルブーツではとにかく足が痛い！楽しく上手く滑るにはブーツからかなあと思い、オフシーズンのうちに紹介して頂いたスキーショップへ自分のブーツを作りに行きました。

そして今シーズンは3回、約6日間のレッスンを受けることが出来ました。自分の足の形に合わせ、またインソールを入れてかかとを付きやすくしてもらったブーツの履き心地は最高。あとは滑りのコツと技術のみ・・・

どんなにドライシュミレーションをして臨んでもやっぱり初日はブーツを履いた感覚、雪の上を滑る感覚、板やアウトリガーの扱い方を思い出すので精一杯でしたが、午後になると慣れてきて本格的にレッスン開始。先季参加した講習会ではとにかく滑走を楽しむということで直滑降！左右に曲がりながら滑る練習もしましたが全然出来ず。というか上手く滑れるようになりたいと思ったものの、そんな風に滑れるようになるのかは自分自身では想像が出来ませんでした。今季の目標は左右に曲がりながら止まらずに下まで下りること。

スキー学校の先生は、どのようにしたらスキー板が行きたい方向に向くのか、いつどのくらい体のどこに重心を置くべきか、目線はどこに向けるべきか等本当に細かく教えて下さいました。お手本を見て説明を聞いている時は理解してるつもりでも、実際に自分がやると全然思うように体が動かない何度やっても出来ない、私には無理なんじゃないか？と思ってしまうほど。それでも先生は根気よく何度でも教えてくれました。この方法が難しかったらこういうのもあるよ！と引き出しからはたくさんの方の方法や手段が出てきました。

4年前久しぶりにスキーをした時はスキー板を履いてただ雪の上に立っているだけでもバランスが悪く今にも転びそうで、口を開けば『怖い〜！！』と騒いでいました。

熱心なご指導のおかげで少しずつですが、レッスンを重ねる毎に前に進んでいるということを確認に感じました。雪の上を滑るあの感覚、冷たい風が肌に当たって感じる痛み、おいしい空気。スキーは最高です！！

たくさんお世話になった柵池スキー学校の先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。また一緒に滑る機会はなかったけど先季の講習会でお世話になった先生方にもたくさん声をかけて頂いた事もとても嬉しかったです。私がこんなにもスキーをやりたいとか楽しいと思えるきっかけを作ってくれた津川さんにもとても感謝しています！いつもありがとうございます！！



○ 出張レッスン ○

当協会の本来の趣旨は、現地のスキースクールの指導員が指導をする事です。しかし、受け入れたいというスクールを見つけ、指導員に指導技術を伝え、実際にレッスンを行う事ができる様にするためにはかなりの時間を要します。その時間を待つ事のできない一つが、学校のスキー旅行です。小中高校生が一番多感な時に、同級生と机を並べて授業を受けているように、雪の上でも同級生とともにスキーの楽しみや、時には怖さや挫折、挑戦などを体験する事は、とても価値のある事だと考えています。

代表の津川は、以前このような経験をしました。協会を設立するずっと前、障害者専門スキー学校で指導する日々を送っていましたが、ある日近隣のスキースクールでアルバイトをする機会がありました。指導するのは修学旅行で訪れた中学生のグループレッスン。開校式を前にしたスキーロッカーでは、多くの生徒が目を輝かせ新しく購入した帽子やゴーグルを披露しあったり、どうやってブーツを履くのか、楽しみながらワイワイ騒いでいる姿が見えました。とても微笑ましいと思っていましたが、その近くでは一人の学生が目に涙を浮かべていました。彼は友人達の楽しそうな姿を直視できない様子で、少し経つとその場から去っていきました。彼は車椅子に乗っていました。その後、雪上でレッスンが始まりました。先ほどの車椅子に乗る彼はどこにいるかな？と気にかけていましたが、とうとうレッスンが終わるまで見つける事は出来ませんでした。宿舎に戻ると、ジャージ姿のままの彼の姿があります。後から教員に話を聞くと、食堂の窓から雪山の絵を描いていたそうです。なぜ他の生徒とともにスキーをする事ができないのでしょうか？その答えは、そのスキー学校に彼が必要とする器具がなく、指導スキルを持つインストラクターがない、という事です。

テレビの向こう側で、同じ障害を持つパラリンピック選手がどれだけ活躍していても、しょせんは絵に描いた餅。実際のスキー修学旅行では、『障害があるあなたにはスキーができない』という現実を突きつけられます。もしも彼に適した器具があり、指導スキルを持つインストラクターがいたら、彼の目は涙を浮かべることもなく、帽子自慢をする友人の輪に入っていた。友人とともに雪の冷たさを感じ、ゲレンデのいろんな場所から雪景色を見て、風や振動を感じ、挑戦や失敗も達成感や心地よい疲労感も感じていた。スキーができないという障害は彼の身体にあるのではなく、器具や指導者がいない環境にある。と考えたと同時に、この環境をなんとかしたい、という思いから、当協会の活動はスタートしました。そのような経緯もあり、修学旅行の依頼があった場合は、可能な限り出張レッスンという形で受け入れる様にしてきました。

長野県 軽井沢プリンスホテルスキー場にて

2013年2月13日、軽井沢プリンスホテルスキー場にある岡部哲也スキースクールにて、広島県福山市からみえた高校生の修学旅行生へのスキー指導へ行きました。事前に行ったご父兄や教員の方との打ち合わせの中から①アウトリガー・スキーブラを用いて立位 ②チェアスキー ③バイスキー という3つのスタイルを呈示し、レッスン時間内で楽しさや達成感を感じる事ができるか、レッスンでの疲労がその後のスケジュールに影響を及ぼさないかなどを考慮し、バイスキーを選択されました。器具を受講生に当てはめるのではなく、その受講生に適したスタイルを選択して頂く事の重要性、また必要性を再確認する事にもなりました。

前日に現地近くまで移動し車中泊し、当日朝にスキー学校を訪れ、再度打ち合わせ。いよいよ生徒との対面です。もちろん彼女は緊張した面持ちでしたが、他の生徒と共にスキーウェア姿で、当たり前のように雪の上にいる光景を見る事ができました。あとは思い切りスキーに挑戦し楽しむだけです。

レッスンが始まり、上下肢・体幹など運動機能面を見ながらいろいろな可能性を探り課題を与え、挑戦し、失敗し、成功し。その姿は他の同級生がレッスンを受ける姿となんら変わりありません。いよいよリフトに乗りました。担任の先生も心配そうな顔で後ろから着いてきました。リフトを降り滑り出した彼女の姿に、先生はもちろん、同級生も羨望の眼差しで見つめます。もちろん彼女は周りを見る余裕はありませんでした。軽井沢のツンと冷えた空気の中で風を切り、遠心力を感じ、颯爽と滑る姿はとても格好良く、出会った時の不安そうな表情とは打って変わり、楽しく自信に満ちた顔で輝いていました。きっと他の誰よりも多くリフトに乗った事でしょう。予算の都合などもあり、他の生徒よりもレッスン時間は短くなってしまいましたが、とても充実した時間になった事かと思います。左のカッコよく滑る写真もお気に入りですが、友達の中に紛れワイワイ一緒に撮った写真もお気に入りです。



長野県 栂池高原スキー場にて

この生徒のスキー体験はとても例外的な対応になりました。協会として指導者講習会を行っていた際、大阪府松原市より修学旅行で訪れていた高校の教員に声をかけて頂いた事がきっかけです。一人の生徒が障害ではないのですが、修学旅行前に膝を怪我したとの事で、スキーはドクターストップ。現地まで来ているものの、他の生徒がスキーをしている時間は近隣の観光をしているとの事でした。教員からは、もしも可能であればリフト一本でもバイスキーを体験させてもらう事はできないか？という要望でした。そこで講習会終了後にその生徒と合流しバイスキーに乗りゲレンデへ繰り出しました。体育科の生徒という事もあり運動神経は抜群で、バイスキーのコツも比較的早く習得しました。もちろんサポートはしっかり行うものの、低い視線で感じるスピード感や、バイスキー特有の遠心力など、とても楽しんでいる様子。他のグループのトレーンにも合流したり、友人と一緒にリフトに乗ったり、皆で写真を撮るなど、とても短い時間でしたが良い思い出になったかと思います。将来は教員になりたい目標があるとの事。同じような目標を持つ他の生徒にも、彼女のバイスキーの滑りを見てもらう事ができた事は、とても意義のある事かと思います。

N.H.さんより

先日はとても良い経験をさせていただいてありがとうございました。私はスキー合宿にきて皆がスキーを楽しんでいる3日間、自分はどうか過ごすのかという事で頭がいっぱいでした。なので正直、行こうかも迷っていました。ですが、3日間の間、皆と同じくらい楽しい思い出を作らせていただきました。

その一人は津川さんです。最初、先生から明日の昼からこのスキーをさせていただくと聞いた時は、嬉しい面もありましたが、でもなんかその気になれませんでした。先生がやっている人を見て、普通のスキーで滑るよりも速いし、とても楽しそうだという事だったので、ここまで何時間もかけてきたのだから最後に皆と滑って終わりたい、という方向に変わりました。

そしてその日の昼、初めて会う人に自分は人見知りなので何を話して良いか分からなかったんですが、津川さんはとても気軽に接してくれはったり、色々な話題を作ってくれはったりと、自分の緊張をといてくれたので、とても楽しむ事ができました。

そしていざ滑ることになって、自分でスピードコントロールできるようにアウトリガーを持たせていただいたり、1番速いスピードを体験させていただいたり、色々な視点から自分に楽しませてくれました。

その時、自分は将来、インストラクターではないのですが、色々な視点から人を楽しませてあげたり、とても優しく面白い人になりたい、という目標の像を見つける事ができました。

そこまで良いように言葉で表す事ができないですが、津川さんには感謝しきれないです。

スキー合宿最終日に、こんなにも良い経験をさせていただき、その合宿中でのやりたくてもできない気持ちなども一瞬で忘れさせていただきありがとうございました。

また、機会があれば拇池高原にも行かせていただきたく思っています。



新潟県 ニュー・グリーンピア津南スキー場にて

2018年4月26-27日、兵庫県尼崎市からみえた中学校の修学旅行生へのスキー指導へ行きました。今回の受講生は、チェアスキー経験者。普段はご家族で滑りに行かれているとの事で、大きな不安もなく事前の情報収集や打ち合わせはスムーズに進みました。しかし一番の不安は雪不足。このシーズンは特に少なく、修学旅行の行先が変更するかも？（＝スキーは中止）という状況。直前の情報では、なんとかゲレンデに雪があるという事でした。前日深夜に土砂降りの大雨と濃霧の中、現地入り。翌朝目覚めると驚きの光景。ホテルから見えるゲレンデはまったく雪がなく、新緑が萌えすっかり春の景色でした。

開校式で受講生と顔合わせ。初対面の私にも初めてのゲレンデにも少し緊張の面持ち。全く雪のないベースエリアからリフトに乗り上部ゲレンデへ。ゲレンデの両サイドはボコボコとフキノトウが顔を出す様な状態でしたが、スキー場の方々のご尽力で雪をかき集め、リフト一本分のコースを確保してくださっていました。今回は初めて乗るタイプのチェアスキー。少し特性も違う様子で戸惑いも見られましたが、滑り出すとすぐにコツを掴んだ様子です。他の生徒からは「あいつメチャメチャ上手いやん！」と誰もが驚きの声。もちろん、先生方も驚きの様子。「A.君、めっちゃ上手いやん！全然ついていかれへんわ！」という声の中、大人しい彼でしたが、時折ニヤッと素敵な笑顔を見せながら滑っていました。普段のスキーでは上達しなかったという苦手な左手のアウトリガー操作も少しずつ上達し、技術面に関しても成長。雪も重く滑りにくさもあったと思いますが、春の陽気の中で、同級生からの羨望の眼差しを受けながら滑るスキーは、家族で行くスキー旅行とは違った思い出になったかと思います。

A.Y.さんより

ぼくは中学校の修学旅行でチェアスキーを教えてもらって、すごくチェアスキーが上手に滑れるようになりました。大きくターンをするために必要な事や、体の使い方を分かりやすく教えてもらうことが出来て、とても良い経験になりました。滑ってる時以外にも、家のことや学校のことを色々聞いてくれて、話していてとても楽しかったです。今回修学旅行でチェアスキーをして、とても楽しかったです。

ご両親より

この度は子・Y.が修学旅行でお世話になりました。修学旅行が4月下旬ということと、学校で初めてのチェアスキー企画で、当初はインストラクターが見つからない、用具がない等、いろいろ心配しましたが、ご縁があってチェアスキーレッスンをお願いすることができて感謝しています。修学旅行から帰ったY.はチェアスキーのことをたくさん話してくれました。ターンの三要素、外向傾姿勢等を教えていただいたこと、確認するとよく理解していました。いままで経験したチェアスキー教室より、さらに理論を深めて楽しく練習できたようです。また、普段の体育の授業では参加できることが限られていますが、今回は学校のみならず一緒に滑ることができて、すこしヒーローになる機会もあったようです。これは親の希望・目標でもある「あたりまえのように友達と一緒に過ごすこと」が体现できたように思います。このようにY.が充実したスキーができたのは、津川様が事前にスキー場・ホテルの方、当日は学校の先生方と、たくさんコミュニケーションをとっていただいたおかげです。ありがとうございました。また機会があればぜひお世話になりたいと思います。最後になりましたが、障害者スキー振興協会が今後も充実した活動であることを願います。



❄️ 普及活動 ❄️

提携スキー学校を全国に広げ、受講生が滑りたいスキー場でレッスンを受ける事ができる環境を作る事を目標としてきました。そのために、各地のスキー場・スキースクールに受け入れて頂けるように働きかけてきました。下記4校にて受け入れを打診し、現地を訪れ、インストラクターを対象とした体験会を行いました。興味を持っていただき、実際に現地のインストラクターが体験して頂いただけでも、啓発活動の一環になったかと思いますが、残念ながらスキー学校ごとに様々な事情を抱え、提携スキー学校として受け入れ環境を構築する事はできませんでした。

岡部哲也スキースクール（長野県 軽井沢プリンスホテルスキー場）

2013年2月13日、出張レッスン終了後の時間をいただき、スキー・スノーボード指導員の皆様が参加されました。障害や器具の説明を行い、リフトに乗り出しましたが、まさかのリフトトラブルにより皆さん宙吊り。一般のお客様の救出作業後に、スクールインストラクターの救出作業に。私はリフト乗車前でしたので、地上から指示し、バイスキーなども無事に下ろしました。そのため、救出場所からベースまでの短い距離での体験になりました。代表の岡部哲也さんも前向きに受け入れを検討して頂きました。器具の購入費用・講習会費用等を捻出するためにREADYFORというクラウドファンディングに挑戦しましたが、残念ながら目標に到達せず、提携スキー学校として実現する事はできませんでした。



アルツ磐梯スキースクール（星野リゾート アルツ磐梯スキー場）

2014年3月20日、スキー・スノーボードインストラクターを対象に体験会を行いました。風雨による生憎の悪天候。細かい説明は最小限に留め、早速ゲレンデへ。初めて触る道具、滑る感触など、まずは遊び感覚で使ってもらい、障害者スキーも同じスノースポーツだという認識を持って頂く事ができました。



イオックスアローザ（富山県 IOX-AROSAスキー場）

2014年12月29日、IOX-AROSAスキー場(富山県南砺市)にて、障害者スキーレッスン受入れに向けて、器具の説明や体験、指導者講習会の説明を行いました。現状はスキー学校インストラクターの人数が不足し、すぐに受入れの準備をする段階ではない、との回答を受けました。しかし実際に障害者スキーを体験してもらう中で、地元の小中学校のスキー授業を受入れる際に、障害を持つ生徒へのスキー体験をさせていきたいと意欲を見せて頂きました。



SIA公認 フジスポーツサービススキースクール（志賀高原高天ヶ原スキー場）

2016年1月7日、2グループに分けて開催しました。このスキースクールは主に修学旅行の生徒を指導する事が多く、中には障害を持つ生徒もいるがスキーはせずに宿で他の課題をしているとの事でした。修学旅行の特性上、どの生徒も同じ参加費用ですが、レンタルや指導のために異なる費用がかかると言う事が大きな問題だと言う事を知る事ができました。当該生徒の保護者、学校、旅行代理店、宿舎、スキースクールなどのどこかが費用の捻出や、数字のつじつま合わせを行う事が必要になります。また、個人情報保護の観点からスキースクールへ生徒の障害の情報などを提供いただく事は難しいとの事で、当協会の求めるレッスンを提供することは困難であると判断しました。



❄️ 啓発活動 ❄️

スキーヤー・スキー場・スキー学校の他にも、一般の方々へ障害者スキーの魅力を知って頂きたく下記のイベント等へ参加してきました。立ち寄る全ての方が興味を持つ訳ではもちろんありません。しかしテレビの中でしか見る事ができなかった器具や、パラリンピック選手以外の対象者への器具やスタイルなども目にして頂く事ができました。（パラリンピックは障害者のためのスポーツの祭典とは考えていません。パラリンピックに出る事ができる障害を持つ方のための祭典です。言い方を換えると、パラリンピックに出る事ができない障害を持つ方も多くいらっしゃいます。）

BANFF Mountain Film Festival in JAPAN 2013 での器具展示

2012年10月5-8日、東京ゲートシティ大崎において開催された、バンフマウンテンフィルム会場内に、パタゴニア日本支社様のご協力を得て器具の展示を行いました。様々な短編フィルムを上映する中に、チェアスキーヤーのストーリーがあり、上映終了後には特に多くの方々がご興味を持ってご覧いただきました。



神田スポーツ祭り

2012年10月27-28日、神田スポーツ祭りにブース出展させて頂きました。神田は日本最大のスキーショップが集まった街です。当日は各スキーショップでイベントが多数開催され、近隣ではカレーや古本のお祭りもあり、人通りもかなり多い中での出展となりました。その中でもやはりスキーヤーはもちろん、医療従事者の方にも多くブースへ訪れてくださり、いろいろな質問などを受け、さらに興味を持っていただく事ができました。



大宮西ロータリークラブ 例会での活動紹介・視察

2014年3月10日、2015年11月9日、さいたま市パレスホテル大宮で開催されました例会において、卓話のお時間を頂きました。両日共に70名余りの参加者の中、実際に器具をご覧頂き、スライドで活動の紹介を行いました。大宮西ロータリークラブ様のご支援により、新しく器具を購入する事ができ、さらにスキーの魅力を多くの方へ届ける事ができるようになりました。

シーズン中には栂池高原スキー場へも足を運んでいただき、実際にレッスンを行なっている現場を見学いただきました。レッスン後にはアウトリガーやバイスキーの体験も行い、スライドや説明では伝える事のできない臨場感を感じていただきました。



星野リゾート アルツ磐梯スキー場 障害者スキー体験会

2014年3月21-22日、アルツ磐梯スキー場において、一般来場者の方へ体験会を行いました。場内アナウンスで参加者を募り、未就学のお子様から72歳の方まで、新潟県や茨城県など他県から参加された方もいらっしゃいました。生憎の天候でしたが、立位や座位など実際にゲレンデで滑ってみる事でより良い体験になったかと思います。リハビリ従事者や看護学生にもご参加いただき、臨床にも活かされる経験になったとのご感想も聞かれました。当協会へサポートいただいている企業様のご協力もあり、豪華な参加賞をお渡しました。同時にリゾートセンターのエントランスで器具の展示や、大きなスクリーンに活動紹介動画を流させて頂きました。



チャレンジドフェスティバル ブース出展

2014年11月15-16日、東京都千代田区日比谷公園噴水広場にて、『チャレンジドフェスティバル2014』が開催され、ブース出展させていただきました。色鮮やかな紅葉の中、暖かい天候に恵まれ、ブースには多くの方が訪れて頂きました。エンターテインメントの文化祭でしたので、少し場違いな感じもありましたが、逆に目新しさも感じて頂き、実際に器具に触れていただくことで、一度体験してみたい、座ってみたかったとのご感想を頂きました。



❄️ 助成事業 ❄️

2014年度、公益財団法人ノエビアグリーン財団(東京都中央区)の助成事業に選ばれました。児童、青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、または奨励している団体、に対し105件の応募の中から選ばれました。助成金は、バイスキー・アウトリガー・スキーブラ・視覚障害者用スピーカーの購入、Hakuba47 Ski Academy・梅池スキー学校での指導者講習会開催、イオックスアローザスキー場視察などに充当させていただき、多くの事業を行う事ができました。

指導者講習会では、実際に障害を持つ方を招きそれまでの指導者講習会の締めくくりとして開催しました。参加者がインストラクターへ指導するという形にし、サポート方法や指導内容が理解しやすいか、など受講する立場から感じた事を細かく伝えてもらいました。また財団の方に現地まで足を運んでいただき視察いただきました。



❄️ その他の活動 ❄️

Snow Ribbon

ピンクリボン活動や、Jリーグ支援などでも知れ渡るリボン型のマグネット。当協会も支援モデルを作成していただき、マグネットの販売やステッカーの作成・配布などで支援して頂きました。デザイン作成時は、こちらの要望を汲んでいただき、全ての雪の結晶に完全な形はないようにしてもらいました。実際の雪の結晶でも完全に左右均等で整うものではなく、人間も同じ様だと考えています。障害だけでなく様々な個性も含め、みな違う結晶だという想いを素晴らしい形でデザインしていただきました。多くの方に愛されご支援いただきました。



賛助会員

活動を支援して頂きたく、賛助会員を募りました。日本では欧米ほど寄付の文化が発展、浸透していない中で、実際にご支援頂けるか手探りの中からのスタートでした。毎年度、個人一口3,000円、法人一口30,000円で募集させていただき、合計で個人から246口、法人から5口のご支援を頂きました。経済的にはもちろん、精神的にも心強い後押しとして、大きな力を頂く事ができました。本当にありがとうございます。

協会支援モデル飲料メーカー自動販売機

自動販売機の売り上げの一部を当協会へ寄付いただくという取り組みでした。三国コカコーラ（埼玉県内）、サントリー（全国）のご協力により、設置したく活動しましたが、残念ながら実現する事はできませんでした。（三国コカコーラ社デザイン例）



READY FOR?

岡部哲也スキースクールにおいて開催した、インストラクターを対象に行なった障害者スキー体験会。その後の受け入れに向けて器具の購入と講習会開催費用の資金を集めるために、2013年5月16日クラウドファンディングに挑戦しました。目標金額1,527,600円に対し、52名の方から784,000円のご協力申し出がありました。残念ながら期間内に目標到達する事ができずに不成立になってしまいました。ご支援をお申し出をいただいた皆様、ありがとうございました。



西町インターナショナルスクール

東京都港区にあるNishimachi International schoolは、協会を設立する以前から、代表は20年を超えるお付き合いをさせて頂きました。長年、多岐に渡り関わりを持っていただき、これまでの活動報告での分類とは異なる位置づけにさせて頂きました。順に報告させて頂きます。

出張レッスン

スキーズームでは著名な芸能人をはじめ、多くのスキヤーの聖地にもなった岩原スキー場。この地へ、ES(エレメンタリースクール、日本教育における小学4～5年生)では3日間、MS(ミドルスクール、同小学6～中学3年生)では5日間、Ski Tripへ訪れます。日本の一般的な学校では修学旅行など一度きりのものがほとんどです。しかしこの学校では体育の授業の一環として行うもので、6年間Ski Tripに参加しレッスンを受ける事ができます。この6年間のSki Tripだけでも急斜面やコブ斜面も上手に滑り降り、SAJ1級に合格する生徒もいるほど、日数だけでなくレッスン内容も充実しています。しかし中には障害を持つ生徒も在籍します。20年ほど前に、ある生徒のレッスンを担当させてもらったのが、この学校とのお付き合いの始まりになります。

協会設立からは、バイスキーを使用する生徒のレッスンを行いました。彼に出会った時は、まだ4年生。身体はもちろん、顔にも言動にも幼さを感じました。障害の特性上、初めの数年はアウトリガーを使用せず、ハンドルバーを握りまるでバイクの様。バイスキーを後ろで操作する私の掛け声で、右へ左へと身体を倒し込み、ターンをします。スピードを怖がる事は一切なく、大きなゲレンデを所狭しと滑りました。この頃に、毎日小学生新聞の取材もあり、記者の方へ誇らしげにバイスキーで滑る魅力などを説明していました。

成長とともに、身体も大きく強くなり、リスクはあるもののアウトリガーに挑戦する事にしました。もちろん、ご父兄や主治医とも相談し、彼の気持ちを尊重しての決断でした。

初めは緩斜面でゆっくりした速度からスタート。しかし、すでにバイスキーのスピード感や傾き、ターン弧などは身体に染みついていたため、みるみる上達。大きなゲレンデも、隅々まで知り尽くし、縦横無尽に滑ります。斜度や雪質、混雑状況などコース状況によりますが、ロープを外して滑ることも増え、バイスキーを思いのままに操れるようになりました。

例年、最終日はタイムアタックがあります。スタートからゴールまで、左右に振られたボールの外側を2本のスキーが通り滑る事が条件です。彼の場合は、完走を目指します。しかし完走というのはバイスキーでは至難の技でもあります。バイスキーはカービングがきつい2本の板を使用するため基本的にはズレる事をとても嫌います。また立って滑る様に、足を踏み換え滑走ラインを修正する事もできませんし、急に止まって自力で登って再スタートする事もできません。切り替えのタイミングを逸する、傾きの強弱を誤る、ラインを読み間違える事は、すぐに完走不可となります。自由滑降と違い、制限がある滑降は本当に難しいのです。それまでは後ろでロープを持ち、無理そうであればある程度こちら側で操作をし、完走にはサポートを必要としていました。

しかし最終学年となった彼は、一人で挑戦する事に決めました。スタート位置でスタンバイする時から、私は彼から離れて見守りました。決して速くない速度とは言え、止まっているボールに加速度をつけて接触した際や、転倒時の衝撃などは、彼の障害には大きなダメージになりかねません。しかし長年培ったスキー技術。不安もありましたが、彼の表情は真剣そのもの、すっかりアスリートの目になっていました。深呼吸をして、いよいよスタートしました。1つ、2つとボールを順調にクリアし、少しずつ速度も上がります。3つ、4つ・・・8つ、9つ・・・。ついに彼は最後のボールをクリアし、ゴールしました。ゴールしても止まらない彼は、ウィニングランと言わ

んばかりに、斜面が緩やかになるところまで滑りおりました。その後ろ姿の誇らしいこと。すぐに彼の元へ滑り寄り、共に喜びました。振り返れば、こちらも安心して一緒に楽しむ事のできるスキー仲間の様になっていました。

K.K.(お母様)より

我が家の子供は7年間にわたり障害者スキー振興協会の津川先生にお世話になりました。多少なりとも障害があると、学校の行事ひとつに参加することもやっとで、スキーなどもってのほか。と思っていた所で障害者スキーと出会いました。初めはとりあえず、スキートリップに参加できれば良い。と思っていました。

初年度帰ってきた息子は、今まで見たことがないほど目を輝かせ、『スキーってすごいね！すごいスピード。また来年やる!!』それはそれはすごい勢いでその体験を話しまくりました。

2年、3年と重ねるにつれスキートリップの日程も長くなりBi Ski技術も上達していきました。

5年目から『補助スキーを外してアウトリガーを使って滑っても良いでしょうか?』津川先生から提案を受けました。スピードも出ますし転びやすくなります。もしけがをすれば少し重大になると。私は迷うことなく「本人に聞いてみますが、補助スキーを外してアウトリガーにチャレンジしてください。」と即答したと記憶しています。それは、数年の経験でスキー技術だけではない、精神的な成長も伴うことを実感していたからです。

体のどこかに不自由があれば、無理をしたり、肉体的に何かに挑戦する、挑戦して成功した時の喜びなどの機会を得ることは難しくなります。しかし障害者スキーは、この機会を十分に得ることが出来ます。自然相手でなくては得られないもの。その時の気温、風を切る音、先生の声掛け、一緒に滑る友人たち。急に晴れたり曇ったり。身の回りのすべてが心を成長させる糧になったと思います。急な斜面のコースを、“出来るかな?怖いな。よし、行こう!”と心を決める瞬間。その心の動き一つ一つが子供の成長につながっていったと思っています。もちろん、スキーの技術も上達します。

トリップ中にビデオを送って下さり、あまりのスピード、急カーブ。そして自分1人でBi Skiを操る巧みに驚きました。その真剣な表情にも。また、機会があれば是非やらせてあげたいと思います。津川先生、ありがとうございました。



(左：まだまだ幼かった4年生。

右：タイムアタックで完走できた9年生)

障害者スキー講義・体験会

始めたきっかけは日本語教師より、「日本語の教科書に障害者スポーツをテーマにした読み物があり、子供達は学んできました。そこで障害者スキーについて何かできないですか？」とお声をかけて頂いた事。当初はスキートリップ中にホテルのロビーで障害についてや道具の説明をし、そのままゲレンデで体験をするという流れでした。しかしどうしても時間が短く、せっかくの機会を活かしきれていませんでした。もう少し時間をかけしっかり伝えていきたい、というこちらの無理を聞いてくださり、例年12月頃に学校へ赴き、講義をする時間を割いて頂きました。まだまだ7年生（中学1年生に相当）は『障害って何だろう？』という学年です。様々な障害について、理解しやすい言葉で伝え、時々道具なども使い疑似体験する事で理解しやすいように伝えました。また、器具の説明や、実際に触れる時間も余裕を持って設ける事ができ、2月のスキートリップではスムーズに体験する事に繋がりました。

スキートリップでは夜のアクティビティの時間に、2日に分かれて体験してもらいました。7年生全員がバイスキーに乗り、アウトリガーで滑りました。二本足で滑るスキーとは全く違うものですが、共通する事は、『スキーってどんなスタイルでも楽しい』という事。いつか成長し大人になった時に、この機会を思い出し、障害者スキーだけでなく、障害者スポーツや障害者の生活などにも目を向けるきっかけになればと思います。



Food Fair・Bake Saleでの啓蒙活動

校内でのイベントの一つである、フードフェアにブースを出展させて頂きました。講義や体験会に参加した学生にブース運営を手伝ってもらい、下級生や訪れる方へ自分の体験を通しての説明をしてもらう事ができました。また募金活動にも協力してもらう事ができました。

バークセールは生徒達が支援先を決め、手作りクッキーやレモネードなどを販売し、売り上げを寄付するイベントです。講義を受けた学生有志らが当協会への支援を目的に開催し、他学年にも活動を紹介しながら販売し、貴重な売り上げから寄付をして頂きました。



❄️ メディア掲載 ❄️

カートピア 2012年2月1日

富士重工業株式会社（現：株式会社SUBARU）の販売ディーラーで配布しているカートピアに掲載頂きました。取材ではとても長く時間をとってくださり、雪上の写真は現地までカメラマンにも同行いただき迫力あるショットを撮って頂きました。誌面も大きく割いてくださり、とても良い記事を掲載して頂きました。



信濃毎日新聞 2012年1月16日

受け入れの前に、体験会という形式で器具に触れ、実際に滑り、不安な点などをクリアしていきたいと、小谷村観光関係者の方々に参加頂いた様子取材していただきました。



大糸タイムズ 2013年2月7日

実際に受け入れに向け、梅池スキー学校指導員を対象とした指導者講習会の様子を取材頂きました。この一步が、後の多くの受講生の笑顔を生み出すことになりました。

THE BIG ISSUE

2013年12月

株式会社ギムニク様のご協力により、THE BIG ISSUE vol.228号に、当協会の広告ページを掲載させて頂きました。



福島中央テレビ 2014年3月21日

FTVスーパーニュースにおいて、アルツ磐梯スキー場での障害者スキー体験会風景とインタビューが放映されました。



2014年3月4日

ソチパラリン

ソチパラリンピックも開催されたシーズン。障害者スキーの可能性や現状を子供達に伝えたいとの連絡を受け、雪上での器具の説明や体験、また実際のレッスンや受講生の声も取材して頂きました。大きな記事で当協会の活動内容を子供達にも理解しやすい文面で掲載して頂きました。



ブルーガイドスキー カタログ号 2014年

代表が執筆させて頂きました。
取材を受けるのとは異なり、障害者スキーを取り巻く現状や思いを自らの言葉で誌面に掲載して頂きました。



BravoSki vol.3 SKI journal12月号 2015年

横浜ゴム株式会社様のご協力により、アルツ磐梯スキー場での体験会と、当協会の紹介ページを掲載して頂きました。



障害者スキーヤーの環境改革を知る!

障害者スキー振興協会は日本各地で障害者スキーヤーの受け入れ体制を構築できるよう活動している。障害者スキーヤーと聞くと、金メダルを3つ獲得したパラリンピックで日本勢が活躍する一方、障害を持つ一般の方々の受け入れる環境が整わず、スキーを諦めている方も多いという。同協会はスキースクールやスキー場への受け入れ体制を整えるなど日本各地で活動している。支援や詳細はwebにて紹介 (www.aads.jp/purpose.html)



14年3月には体験会も行われた



AADS

一般社団法人 障害者スキー振興協会

代表 津川明也

Impression

信頼できるタイヤを履いていることが、貴方達の競技につながる!

一般社団法人 障害者スキー振興協会。どのような環境があっても大丈夫。どこでも、誰でもスキーを楽しめる環境を整えることを目標に活動しています。しかし、現状ではそのような環境にはありません。そこで、一般のスキースクールでも障害者スキーのレッスンを提供できるように、指導者のための講習や指導者の確保、そして受講生が安心してレッスンを受けるための環境を整えることを目指しています。このためには、スキー場やスキースクールでの受け入れ体制を整えることが重要です。スキー場やスキースクールでの受け入れ体制を整えるためには、スキー場やスキースクールの管理者や指導者との連携が重要です。また、スキー場やスキースクールの管理者や指導者に対して、障害者スキーの知識や技術を伝えることも重要です。このように、障害者スキーの環境を整えるためには、多くの課題があります。しかし、我々が取り組んでいることは、貴方達の競技につながることを目指しています。

08 障害者スキーの現状

誰でもスキーが楽しめるように環境の障害を取り除く活動を

現在、障害者がスキーを楽しむには、まだまだ多くの課題があります。まず、スキー場の敷地やコースの整備が不十分で、障害者が安全にスキーを楽しむことができません。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術が不足しており、障害者のニーズに応えることができていません。さらに、スキー場の料金や利用料が高額で、障害者がスキーを楽しむことができません。このような課題を解決するためには、多くの取り組みが必要です。まず、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることです。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることです。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることです。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。



体験会では、パラリンピック選手も参加し、障害者スキーの魅力を伝える活動が行われた

日本の障害者スキーヤーは、世界的なレベルで高い技術を持っている。しかし、彼らはまだ多くの課題に直面している。まず、スキー場の敷地やコースの整備が不十分で、彼らが安全にスキーを楽しむことができません。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術が不足しており、彼らのニーズに応えることができていません。さらに、スキー場の料金や利用料が高額で、彼らがスキーを楽しむことができません。このような課題を解決するためには、多くの取り組みが必要です。まず、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることです。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることです。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることです。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。

私たちの活動では、まず、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることです。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることです。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることです。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。また、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることは、障害者の安全を守るためにも重要です。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることは、障害者のニーズに応えるためにも重要です。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることは、障害者がスキーを楽しむためにも重要です。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。

全国的に障害者スキーヤーが増え、スキー場での活動も盛んになっています。しかし、まだまだ多くの課題があります。まず、スキー場の敷地やコースの整備が不十分で、障害者が安全にスキーを楽しむことができません。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術が不足しており、障害者のニーズに応えることができていません。さらに、スキー場の料金や利用料が高額で、障害者がスキーを楽しむことができません。このような課題を解決するためには、多くの取り組みが必要です。まず、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることです。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることです。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることです。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。

スキー場でも多くの課題があります。まず、スキー場の敷地やコースの整備が不十分で、障害者が安全にスキーを楽しむことができません。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術が不足しており、障害者のニーズに応えることができていません。さらに、スキー場の料金や利用料が高額で、障害者がスキーを楽しむことができません。このような課題を解決するためには、多くの取り組みが必要です。まず、スキー場の敷地やコースの整備を充実させることです。また、スキー場のスタッフやガイドの知識や技術を向上させることです。さらに、スキー場の料金や利用料を低減させることです。このような取り組みを通じて、障害者が安心してスキーを楽しむことができるように努めます。

文・写真/津川明也

本誌に掲載された写真は、すべて津川明也氏が撮影したものです。また、本誌に掲載された文章は、すべて津川明也氏が執筆したものです。本誌の発行は、津川明也氏の個人事業として行われています。本誌の収益は、津川明也氏の個人収入として扱われます。本誌の著作権は、津川明也氏に帰属します。本誌の複製や転載は、津川明也氏の許可なくしては行いません。

本誌の発行は、津川明也氏の個人事業として行われています。本誌の収益は、津川明也氏の個人収入として扱われます。本誌の著作権は、津川明也氏に帰属します。本誌の複製や転載は、津川明也氏の許可なくしては行いません。



パラスポーツマガジン 2020年

いくつもの障害者スキーに関わる団体に関わる誌面の中で、「障がい者スキーをサポートする道具たち」「障がい別のスキースタイル」の文面に関わらせて頂きました。



❄️ 他サイト掲載 ❄️

日本財団 マイパラ 2017年

日本財団の運営するサイト、『マイパラ』に当協会の活動が掲載されました。内容は、障害や地域から、実際にできるスポーツを検索するサイトです。

<http://www.parasapo.tokyo/mypara/teams/detail/?teamId=191>

サステナブル・ブランド ジャパン 2017年

CSRや環境問題等を発信しているメディア『オルタナ』のウェブサイト『サステナブル・ブランド ジャパン』に、公益財団法人ノエビアグリーン財団の助成事業が掲載され当協会の活動が紹介されました。

http://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1188721_1501.html

❄️ ご協力いただいた企業 ❄️

活動には、多くの企業の支えによる後押しがありました。もちろんご支援の大小はありますが、担当者をはじめその企業毎の企業理念や思いがあつての力でした。本当に感謝しております。ご支援頂くにあたっての経緯やご支援いただいた内容については、要らぬ影響を与える事も考慮し、ここでは企業名のみのご紹介とさせていただきます。（敬称略）

株式会社 阿部商会



ペンション樹の子



CALLA FACTORY



SEED合同会社



パタゴニア日本支社



有限会社 フルマークス



HEAD Japan 株式会社



東雲グループ 司法書士法人・行政書士法人
星野合同事務所



横浜ゴム株式会社



株式会社 ウェイブコミュニケーションズ

